

令和 3 年 12 月 6 日

各 報 道 機 関 御 中

国立大学法人山梨大学

山梨大学 地域貢献公開シンポジウム

「やまなしの森の活かし方～自然資源の活用と地域の発展を考える～」開催のご案内

本学地域人材養成センターでは、平成 26 年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」に採択され、5 年間にわたる事業の終了後も引き続き地域再生・活性化への取り組みを進めております。

このたび、下記のとおり、山梨大学「地域貢献公開シンポジウム」を開催することとなりました。

本シンポジウムは、大学COC事業の一環として、平成 29 年度より 3 回にわたり開催された町村リレーシンポジウムの事業を継承したものです。「やまなしの森の活かし方～自然資源の活用と地域の発展を考える～」をタイトルに、みどり豊かな山梨で「森づくりと地域の発展」を同時に実現する方法について考えます。

つきましては、本シンポジウムを多くの方に知っていただくためにも、取材方よろしく願いいたします。

記

日 時:令和 3 年 12 月 12 日(日) 13:30～17:30(開場 12:30)  
会 場:山梨大学甲府キャンパス A2-21 教室(山梨県甲府市武田 4-3-11)  
※会場と Zoom の同時開催となります。  
内 容:農学・森林科学等の 6 名の講師による講演

当日の取材を希望される場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。  
なお、本シンポジウムの詳細は別添のフライヤーをご覧ください。

【お問い合わせ先】

山梨大学地域人材養成センター支援課  
TEL 055-220-8450/FAX:055-220-8702  
E-mail [chiiki-c@yamanashi.ac.jp](mailto:chiiki-c@yamanashi.ac.jp)

【広報担当】

山梨大学総務部総務課広報企画室  
TEL 055-220-8005・8006/FAX:055-220-8799  
E-mail [koho@yamanashi.ac.jp](mailto:koho@yamanashi.ac.jp)

# やまなしの森の活かし方 自然資源の活用と地域の発展を考える

参加費  
無料

山梨大学地域貢献公開シンポジウム

令和3年 **12月12日**(日) 13:30~17:30 (開場12:30)

山梨大学甲府キャンパス A2-21教室

山梨県甲府市武田4-3-11

●会場とZoomの同時開催

●定員:会場70名・オンライン配信200名

※応募順にて定員となり次第締め切りとさせていただきます。

※新型コロナウイルス感染症拡大状況により開催方式の変更もありますのでご了承ください。

ICTを活用したスマート林業の普及、森林空間を活用したサービス産業の創出、里山資源を活用した森林ビジネスなど、森の新たな活用を通じて地域の活性化につなげる取り組みが注目を集めています。本シンポジウムでは、みどり豊かな山梨で「森づくりと地域の発展」を同時に実現する方法について考えます。

講演プログラム

講演1 **山梨のヤマのことー森林と林業の現状と課題ー**

長池卓男 山梨県森林総合研究所

講演2 **LPWA鳥獣震センサーの活用**

渡邊 修 信州大学学術研究院農学系

講演3 **森林資源の多面的活用による地域発展を考える**

立花 敏 筑波大学生命環境系

●休憩(10分)

講演4 **食用菌根性きのこの栽培化研究**

山田明義 信州大学学術研究院農学系

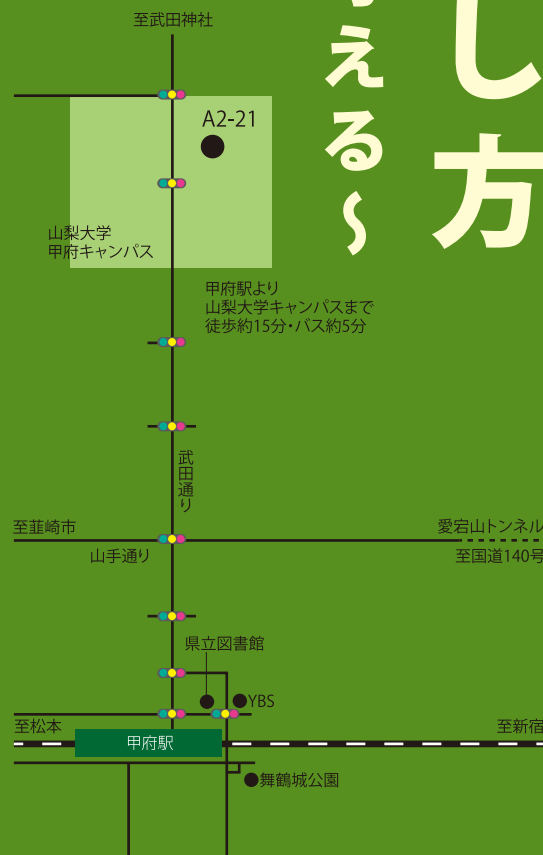
講演5 **身延町特産「あけぼの大豆」の栽培土壌環境**

片岡良太 山梨大学大学院総合研究部生命環境学域

講演6 **南アルプスでジオトレイル**

松岡憲知 茨城大学教育学部

●質疑:16:50-17:20/閉会:17:20-17:30



主催:山梨大学地域人材養成センター  
後援:山梨大学山岳科学特別教育プログラム  
山梨県立大学 PENTAS YAMANASHI  
山梨県町村会

# 山梨大学地域貢献公開シンポジウム

## やまなしの森の活かし方～自然資源の活用と地域の発展を考える～



### 長池卓男

[山梨県森林総合研究所]

#### 山梨のヤマのこ ー森林と林業の現状と課題ー

山梨県は、日本で標高の高い1～3位までを有する山岳県である。森林率は全国4位と森林が豊富な県である一方、林業産出額で見ると42位である。山梨県での森林・林業・木材産業を巡る現状や課題(ニホンジカ、荒廃人工林・農地等)を通じて、森林の豊かさを享受し活かす方策について考えてみたい。



### 渡邊 修

[信州大学学術研究院農学系]

#### LPWA鳥獣罨センサーの活用

ニホンジカを中心とした有害鳥獣の捕獲圧を上げるため、くり罨の設置が実施されているが、罨見回りに多くの労力がかかっている。2017年に産官学(信州大学、新光商事、伊那市有、長野県伊那市)で研究グループを構築し、LoRaWANモジュールを搭載した鳥獣罨センサーを開発し、ここでは伊那市内での実証研究を紹介する。

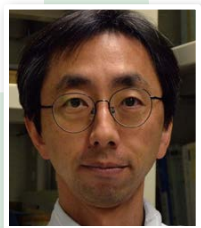


### 立花 敏

[筑波大学生命環境系]

#### 森林資源の多面的活用による 地域発展を考える

地域資源を活かした地域の発展につなげるには、域内産物の地産地消から域外への販売、域外からの訪問者の増加が重要になると考えられる。そのことを念頭に置き、本講演では森林資源を取り上げる。ここで重要となることは「森林資源の多面的活用」であり、地域材による木材製品から森林空間までの活用を多角的に検討する。



### 山田明義

[信州大学学術研究院農学系]

#### 食用菌根性きのこの栽培化研究

マツタケをはじめとする食用菌根性きのこは、今日でも菌床栽培が難しいため、山林での収穫物が唯一の市場供給源となっている。山梨県や長野県は山林面積も広く、きのこ狩りの適地とも言える。本講演では、そのような地域特性を活用する形で、食用菌根性きのこを山林で増殖させるための研究事例について紹介したい。



### 片岡良太

[山梨大学大学院総合研究部生命環境学域]

#### 身延町特産「あけぼの大豆」の 栽培土壌環境

大粒で甘みの強い「あけぼの大豆」は従来、自家用として極小規模農地で栽培され受け継がれてきた。そのため、地域性が強く、生産量が限られていることから「幻の大豆」と言われている。本講演ではあけぼの大豆の特徴や栽培土壌について解説する。



### 松岡憲知

[茨城大学教育学部]

#### 南アルプスでジオトレイル

近年、地球科学・生物学的価値に優れた地域がジオパークやエコパークに認定され、教育や地域振興のための活動が盛んになっている。ジオサイトをつなぐ歩道(ジオトレイル)の整備も進んでおり、トレイルの学術的価値の理解とわかりやすい情報提供が求められている。南アルプスは日本を代表する山岳景観を有し、地球の歴史や山の自然環境を総合的に学ぶ題材が満載である。そこで、白峰三山をジオトレイルの好例として、ルート沿いで観察される魅力的なジオサイトについて紹介する。

#### ■お申し込み

- 下記URLまたは、右記のQRコードにアクセスし、Googleフォームより事前申し込みをお願いします。
- Zoomで参加をご希望の方には、講演前日までにZoomの視聴URLをメールにてお送りします。

※申込み締切: 12月5日(日)

[URL] <https://forms.gle/P4x77YKMF1Ktdm528>



[QRコード]

#### ■お問い合わせ

山梨大学地域人材養成センター支援課  
Tel:055-220-8450 Fax:055-220-8702  
Email: [chiiki-c@yamanashi.ac.jp](mailto:chiiki-c@yamanashi.ac.jp)